
魔法少女リリカルなのは～転生者達の戦い～

鬼畜な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは～転生者達の戦い～

【Zコード】

Z0037BA

【作者名】

鬼畜な人

【あらすじ】

どうしてこうなった？何故か俺は面白い事ないかな・・・って思つてたらだ

神に殺された そして転生者達の戦いに巻き込まれた つまりそういうことだ

システムが歩む道とは・・・（高町家のあの人とはまったく関係ありません）

正直言っちゃうと 今年最後なので無印は半分ぐらい書き上げ・・・
れたら

書き上げます 駄文ですが

正直三人称視点は苦手なので一人称が多いですがよろしくお願ひします

目指せ！100万PV！

第一話 始まり始まり（前書き）

はい 作者です

結構まじめに書いたつもりです

馴文を見たくない方はブラウザバックしてくださいね！

第一話 始まり始まい

俺は柴崎神治 普通の高校生だ

まあ、それはやつまで話だけどな

（回想）

「やることねーなあ・・・面白い事おひんねーかな・・・
毎日、学校行つて 家に帰つたらすぐ自分の部屋で
小説サイトや某動画サイトを巡回している
日常だが・・・平凡すぎてもうないと想つ時もある
まあその時言つた言葉が問題だったのかな

「もしも神様がいたらな・・・俺に面白い事をやらしてくれー...」

そしたら声が聞こえてきた・・・
自分が考えてもないのに頭の中から

『汝の願い、聞きとげた まあ我も暇をしてたといひでな
面白い事させてやるからさつさと 死 ね』

「えつ？」

そう思つた瞬間だった

「キキツ――...」

ぐじゅつ

聞きたくない音が走つた
何が・・・起こつたんだ・・・？

隣で俺がトラックに押しつぶされている

かなりスプラッターな光景だ

いつもの俺なら卒倒してるだろ？

現に今 吐きそうになつてゐるのだから

「すこく吐き気がするのに、吐けないのは何でだ！？」

そして何故俺がトラックに押しつぶされている！？」

また謎の声が聞こえてきた

『ふむ、混乱してるようだな 自分で望んで来たと言つのに』

『はい？面白い事を望みと取りやがつたのか・・・こいつ

『神に向かつてこいつか・・・まあ我的存在を知らないんだからしようがないか』

か・・み？どういうことだ？まずこの頭？に聞こえてくる声は何だ？

考えてもしょうがないので 頭の中に聞こえてくる声に

質問してみるとした

（俺は・・・死んだのか？）

相手の返答を待つ

『自らここに来る事を望んで何を言つ』

面白い事を望んでいると思つてここにつれてきたのか・・・

ん？よつするにこいつが殺したのか！俺を！

『そう言つな 我も暇なのだから面白いゲームに

参加させてやろうぢやないか』

ゲーム・・・？

『まあそうだな 転生者どうしの争いと言つた所か』

転生？つまりどういうことだ？輪廻転生じゃなく

転生なのか？二次小説とかでよくある前世の記憶を持ったまま

転生つてやつか？・・・面白そうだなん？争いつていったか・・・？

『殺し合いだ しなくともいいが優勝商品は

神の座だ 我もちょっと疲れてな 休憩がしたいのだよ

まあ結局巻き込まれると思うがな 最後の一人までなのだからな

ちなみに転生は拒否できないぞ 強制だからな》

殺し合い・・・だ・・と?

そんな事できるわけが・・・

《どんなことを言つたって他の奴は了承したんだ（強制だがな）
しじうがないだらう だからじうせ巻き込まれるつて言つただらう》

ついでに言つが特典はあるのか？

《ふむ 特典は最初一つだけだが 転生者を殺したら
あげるぞ ちなみに最大は三つまでだ
・・・・一コポなんて要求した馬鹿がいたがな》
・・・殺し合いに一コポなんて持つてたら戦えず真っ先に死にそう
だな

《ちなみにリリカルなのはの世界だ》

なん・・・だ・・・と！？

俺の大好きなアニメじゃないか！

・・・ん・・・じやあ 俺も原作介入することになるんだな・・・

《後言つておくがお前が住んでた世界の500年前に分岐した世界
だよ》

え？ IFFの世界か・・・イレギュラーとかがいっぱいいるんだろう
な・・

それと特典かー・・・どうしようかな
Fateのヘラクレスの力にしようかなーそりしようつー

《「ゴットハンドは無理だぞ お前は何回も死を覆してないからな》

まじかー・・・

あれ でも戦闘技術とかは・・・

『ないぞ 自力で訓練しろ

じゃあ行つてもうつぞ セイゼン我を楽しませてくれよ』

床に突然穴ができ そのまま俺は落ちて行き 意識を手放した

「回想終了」

まあこんなわけだ

今真つ暗で息苦しい

なんか声が聞こえる なんの話をしているんだ？

「……………！ もちよーーーん？」

なんか頭が痛いぞ

締め付けられて・・・痛い痛い痛いいい

「オギヤアアアアアアア（え？赤ちゃんからっ・マジでっ・）」

第一話 始まり始まり（後書き）

作者「・・・」
神治「おい作者 また新作始めやがったな！？」
作者「・・・」
神治「一様全部修正しろよ？そして完走しろ」
作者「・・・」
神治「なんかしゃべれええええええええええ！」
作者「すいませんでしたっ！すいませんでしたっ！」

第一話　・・・あれ？（前書き）

どうしてこうなった？
・・・うーむ

第一話

やあ 柴崎神治だ

現在
2歳だ

2年前は本当に大変だった！

いきなり赤ちゃんになつて驚いた
それだけは言っておこう

そしてすぐ母乳を飲むとき恥ずかしかつて

貴様は、
神！？

『ルールを教えるのを忘れていてな
お前の場所を探すのに苦労したぞ』

ル・ル?

『まあ、記憶にルールを刷り込んで置くから勝手に見とけていうか見なかつたら死ぬと思え』

・・・痛つ痛い痛いいつてええええええええええええ

頭がめちゃくちゃガンガンする

一分ぐらいしてようやくおわまたた・・・

ふむ・・・これがルールか

ルールその1

結界を張つて戦え 被害が出たら我が勝手に口座から
金引いて修理するからな

・・・・あっれー？神様つていい人？・・・いやめんビクさいだけか

ルールその2

転生者とばれるな
ちなみにばれたら記憶破壊を行つ

まじかー

ルールその3

我にゲームから退場したいといえば人生から退場させてやる

・・・ええー

以下略

まあこんなとこだ

てか・・・・なんで海鳴市なんだ・・・・・

神が仕組んだのか！？そつなのか！？

やつぱり強制なのか！？運命なのか！？

・・・・・そついや転生者は何人いるんだろうか・・・・・

後名前は前世と同じだ 多分・・神が仕組んだのだろう

それから何事も？なく3年経過

それと良い事があつた！

妹が生まれたあああああ すんげーかわいい！

妹の名前は水都みとだ うん 良い名前だ！

・・・・悪い知らせは 親が行方不明だ 妹が生まれてから消えた

まあいいや！妹さえ可愛ければ！

第一話　・・・あれ？（後書き）

主人公がシステムになってしまった・・・・・

第三話 動き出す物語（前書き）

あーあー何も聞こえないー

そろそろ無印開始です

やあ またあ t t

『よう
久しうりだな』

- またお前が「

『お前とは何だお前とは
神(様)と呼べ!』

いつのまにか神が毎日のように来るようになった

《ルルとニコ姉妹だ! ルルとニコ姉妹だ!》

お兄ちゃん……謳と譜してゐるの?
「

いやなんでもないよ! ああ|田 父愛したあ|田 父愛したあ「

おれは水都の頭を撫てる

-お兄ちゃん！恥ずかしいよ//

『す』レシスコン『ぶりだな！』

誰かシステムだああああああああああああああああ！－！－！

「お兄ちゃん……怖い……」

「ああ、じめんな……怖くなーい怖くなーい」

『…………』

こんな感じで神はすぐ帰つていく
何故だらうか……

てか他の転生者のサポートしなくていいんだろうつか
てか俺神の名前しらねえええええええ

「じゃあ寝ようか お休みね 水都」

「お休み お兄ちゃん」

まあこんな感じで毎日が過ぎていく
結構楽しい日々だ

前世とは大違いだな

・・・あれ 何か忘れてるような・・・

? ? ? s.i.d.e

「役者は整った 後は我が手の平を踊るだけ もあ

始めよひじやないか プロジェクト・運命 を」

世界の異常者が生まれ 物語は大きく壊れ始める

? ? ? s.i.d.e.out

あー思い出したーこれバトルロワイアルなんだつけ！

・・・思い出せなきやよかつた

ん・・・それじゃあ今なのはは5歳だよな・・・

・・・・もう誰かが介入を始めてそつだな

さて 僕はどうしようか

まあ！水都が可愛ければ問題ないな！うん！

『こいつ・・・シスコンか・・・妹が可愛いからって
問題ないって・・・重病だ・・・』

神は 神治のいないところでは 神治を完全にシスコン扱いだった
しうがないよね！

「ん・・・今なんか聞こえたような・・・気のせいかな？」

『怖つ・・・神が怖がっちゃ駄目だな さてと

他の転生者でもサポートにいくかな』

神の口調が結構変わったのは神治とかかわり始めてからだが
完全に本人は自覚をしていない
口調変わってるところとか

「じつはいつになつた」

状況を簡単に説明する

- 1 スーパーに買ひものにてかけた
 - 2 公園で男に絡まれてゐる女の子を見つめた
 - 3 「おいやめる」と一声掛けたが「ＺＯＢのくせに生意氣なんだよ！」と言られた
 - 4 あれもしかして」につづき転生者？
 - 5 「ひとりあえず・・・ボウルか」
今ここ
- 「俺に勝てると思つてんのか？」
とちとびら
- 「女の子が困つてんだから助けるに決まつてんだ」
と俺
- 「ふえええ？／＼」
と女の子
- 「」
ん？今顔を赤くしたか？気のせいだ セット
- 「」
かうす音声のみでお楽しみください

ボコッガスツドカガスツドゴッ
バガツドスツガガツツドンツ
バンバンドツガガガツドスツ

「これぐらいやればいいだろ?」

「グハアツ」
とちんぴら

「やりすぎたか・・・? 体中から血を・・・あれ・・・?
あの女の子はどうだ?」

「ふええん・・・ふええん・・・うええん」

・・・・やりぱりやりすぎだつたか・・・
とりあえず病院を・・・つて こいつどうにかしないと!」

「名前は何かな?」

「つええん・・・なま・・・え? なのはなの・・・」

「俺の名前は柴崎神治だよ

そういうえばさつきなんで男に絡まれていたの?」

「なのはは俺の嫁とかいつてたの・・・怖かったよ・・・」

あーやつぱオリ主ハーレムとか
あびてるやつか・・・ああにうやつりは驅逐しないとなー

止めは・・・」」」無理だよなー

「もう大丈夫だよ あの男は・・・うん もうこなこと思つよ?..」

「やう・・・なの?」

「やういえば・・・わざなんでないてたの?..」

「ないてない!お父さんが・・・大怪我しちゃって・・・かまつてくれる人いなくて・・・
ひとりぼっちで・・・」

「もう大丈夫だよ 今度遊んでやるよ」

・・・俺の服で涙拭くな

まあ仕方ないか

・・・あれ?なのはの顔が赤い気が・・・気のせいだよなーうん

この光景を見るものが居た

神だ

『・・・なんだかんだでフラグ建ててる氣がするんだが気のせい
なのがな・・・』

まあそんなこんなで1年経過しちやつたよ

・・・あれ何で俺私立聖祥大附属小学校に入学してんだ！？

運命なのか・・・逃れられないのだろうか

おつ友達イベントはつせ・・・あれえ？
神崎とか言う奴が絡んで・・・ええ！？

なのはのセリフとりやがつた！・・・あれ」の場合

・・・でもここで友達ならなかつたら完全にストーリー崩壊だから世界の意思がなんとかするのかな?

まいこいや！

1年生の勉強なんて正直どうでもいいから寝よう

「柴崎くーん？起きてー？ねー？」

先生が困りはてていた

第三話 動き出す物語（後書き）

・・・一年生の勉強だから寝ても仕方ないよね！

無印 開始時の設定

名前 柴崎神治

年齢 9歳（原作開始時）

身長（原作開始時）142cm

容姿 黒髪のただのイケメン 短髪

他のアニメのキャラで言つとEISの一夏に似ている
基本的にGパンにTシャツ一枚

能力 Fateのヘラクレスの力（ゴットハンドは使えない）

1tぐらいのものなら両手で持てる（まだ片手では上げれない
リミッターのようなものがかかっている）

体力は・・・100km走つたら疲れ始めるぐらい

魔力 AA

デバイス 氷霧 バリアジャケットは迷彩服

ショットガンとグレネードランチャーがくつついたような感じ

SPASにグレランをつけたようなものと思つてくれればいい

広域魔弾拡散型 と柴崎はよんではいる

妹が可愛いから守りたい ただのシスコン

名前 柴崎水都

年齢 6歳（原作開始時）

身長（原作開始時） 113cm

容姿 水色の髪に青眼 ちよつと髪は長い

ちなみにお気に入りの服は白のワンピース

魔力 ?

自分のお兄ちゃんは何でもできると勘違いしている

第四話 テバ・・・イス？（前書き）

ついに無印開始一話前！

完走できるのだろうか

第四話 テバ・・・イス？

やあ またあつたな

柴崎神治

『よう そろそろ殺し合いが始まるから デバイス渡しに来てやつたぞ!』

「おい神、俺に挨拶をせり!」

『かたいこと言ひつな』

「えー」

『まあ これがお前のデバイスだ 受け取れ』

「あいあいつとつー?」

神が受け取れと言ったその時
デバイス?っぽいのが突如目の前に現れて
マジでびびった

「いきなり目の前に出すなよ!」

『知らん』

「ひでえ・・・・・」

『ちなみに『テバイスの名前は氷霧だ』

「おひつ ありがたく受け取つたぞ」

『我は他の転生者に『テバイス渡して来る 説明? その『テバイスに
聞け』

そのまま田の前の白い光は消えた

「・・・・ペンドント型の『テバイスか

『マスター? 聞こえますでしょ? つか

「! ? いきなり喋るな! ゲホッゲホッ」

ペンドントがいきなり喋り掛けってきたせいでもせた

・・・ん? そういうや魔力量つてどれぐらいあるんだ?

まあどうせそんなにないんだろうけ・・・『AAですよ マスター』

「はあつー? ちょっと多すぎじゃないか? それは

まあ 魔力量は多くてもこしたことはないんだけど・・・

あ、それとだ 神崎とか言う奴が学校でなのはに絡み始めた
完全に虫を見るような田で見てたけどな!

でも神崎は「恥ずかしいんだろ? !」

とか言ってた どんだけ惚れてると勘違いしてるんだ? こいつは

「つあえずバーニングスと田村となのはが友達になつたから 安心だな
てかやつぱり神崎つて転生者なのか？原作に絡み始めたら真っ先に
殺しても・・

「お兄ちゃんどうしたの？」

「いいや なんでもないよ 水都へ

妹が可愛いからよしとしょひ

まあそんなこんなで2年たつた

ついに原作が始まる 殺し合こと一緒に

・・・とつあえずフロイト側につくか なのは側につくか・・・

よしー謎の男として登場しようつかな

「お兄ちゃん・・・わざと男の子がでっかい動物に襲われている夢
を見たんだけど・・・

え？俺の妹って魔力あるのか？

「へえ 僕も見たよ」

「えつ？お兄ちゃんも見たの！？」

「ああ」

「へえ そつなんだあ ・・・ 何か隠してない？」

！？つ何故隠してるのがバレタ！？

「チーズケーキなら戸棚に・・・」

「いや・・・お兄ちゃん？そつこいつじじゃないよね？」

完全にバレテル・・・じつじよつ

1 素直に白状する

2 嘘をつく

3 叩きのめす

・・・3は駄目だろ！？

即警察行きじやねーか

よしー2だな！

「いやね 何も隠してないよ？」

「汗だらだらだよ？お兄ちゃん？」

・・・・言い逃れできねえ

「じゃあ俺はジョギング行って来るー。じゃあなつー。」

「うひつむ兄ちゃんー？待つてーー？」

よし逃げれた！

・・・・どうやつて家に帰るつ

『素直に言えばここんですよ マスター』

「水都に危険な事はさせたくないんだよー。」

『いや・・・マスター？言わなかつたら余計に危険な事にならんく
妹の為ならなんでもやるー・・・』

『じゃあマスター 本当の事を話に行きましょつね

「しまつたつー！」

とつあえず家の前にいたわけだが

・・・よし決心をつけた！

「実は俺 魔法使いなんだ」

「おー」こつーちゃんがまつおにこけやんはなんでもできるんだねー。」

「いや・・・なんでもできるわけじゃないんだが・・・」

妹は俺がなんでもできると勘違いしている

第四話 テバ・・・イス？（後書き）

・・・・・ん？

あいかわらずの駄文だ・・・・

第五話 原作開始（前書き）

なんだか、ペースが上がってきた

ちょっと次の回から原作介入なので今すぐアニメ見直してきます

第五話 原作開始

やあ柴崎神治だ

今妹に魔法で何ができるのか?と聞かれている
正直に言つてしまつと 一回しか使つたことがない

「お兄ちゃん、魔法つて何が出来るの?」

・・どうしよう

「空とか飛べるよつになるんだよー」

正直に答えた

「いいなー お兄ちゃん 私も魔法使える?」
リンカー「アがないとなあ・・・

『使えますよ』と氷霧

「えつ?」

まじで?リンカー「アあるの?」

「本当!?あれ?今の声つてどいから・・・?」

『どいですよ』

と俺のペンドントが光る

「ペンドントが喋つてる!?」

とここで俺が口を開く

「ああ これはデバイスという補助具なんだ」

「デバイスつて何?」

「えつと・・・つまりだな 魔法を使いややすくする道具だ」

「へええー・・・私にも頂戴!」

・・・・どうしよう

神にもらつたから無理という訳にも行かないし

第一ここで水都も原作に入りしてしまつと

他の転生者に水都が転生者と勘違ひされてしまつ・・・・どうじいか

しないと

俺の妹が転生者に汚される…どうにかしないとな……

突然頭に頭痛が走る

『ようよう 久しぶりだな』

（こんなときにもんどうさいやつが出てきやがった
（何のようだ？ 神、俺は妹がデバイスをほじがっててな、
どうにかしないといけないんだ サツサと帰れ）

『帰れとはひどいな お前の妹にデバイスを渡しに来たのに』

（すいません 神様 ありがとうございます）

『態度変わりすぎだぞ お前』

『まあとりあえず妹の服自体をデバイスにするからな』

（えつ？）

と思ったその時

水都が着ていた白いワンピースが光り そして・・・

『始めてまして マイマスター』

「えつ？えつえ？何これえええええ！？」

完全に水都が混乱していた

「えつとだな・・・それがデバイスになつた

「えつ？どういうこと？」

「そうだな・・・

「不思議な現象が起こり なぜか デバイスになつた それだけだ

セットアップつて言つて見た「セットアップ！」

起動コード無しで……だ……と?
魔力量結構多いのかな?

あれ……? まつたく姿が変わつてないぞ?

「お兄ちゃん、これでいいの? 白のワンピースから姿変わつてない
んだけど……」

「お兄ちゃんにはまつたくわかりません」と俺

まあ一ワンピース姿が可愛いからいいけど!

まあそんな会話してる時に、なのはが魔法少女になつてたんだけどね

あと良い知らせなのかわからんが 【今日】【転校生】が来た

第五話 原作開始（後書き）

む・り・・・?

バトル回が近づいてきた・・・どうしようつ・・・

戦闘描写はむずかしいけどがんばりますね

第六話 介入（前書き）

よし・・・駄文だな！

・・・・駄目だこれー！

第六話 介入

やあ

柴崎神治だ

早速面倒事に巻き込まれていい

なのはと談笑していたら

転校生が「そんな男と喋ってないで俺と喋らないかい?」とハハハと笑いながら

言つてきた なのはが・・・うん・・引いてる

「おい、なのはが嫌がってるから黙れ」

キツとした鋭い目で殺氣を当ててみるが
ちょっとだけびっくりした表情になつたがすぐにハハハと笑いながら
後ろに下がつていった・・・が、問題がひとつ

転校生が笑うと ほかの女の子は完全に頬を赤くしているのだ
これはどういうことか?と思うと 十中八九 ニコボを選んだダメな転生者だ

にしてもだ 心を操作するニコボはひどいと思う ので俺はこいつを
第一優先抹殺対象とすることにした

・・・・こいつが原作介入始めたら真っ先に俺は・・・言いたい事

はわかるよな？

まあそんなこんなでだ、現在月村家にいる勿論水都も一緒だ

「お兄ちゃん、ここ猫いつぱいいるねー」

「もうだな かわいいな」

と談笑してふと思つ

あれ?ここ原作のあそこだよな?・?・?・?やべえ

・?・?・?いやなのはと淫獣もいるな・?・?
ああこれは完全に終わつたな

水都と俺がJ.S事件にかかることになるな・?
水都を原作に閑わらせたくなかつたのに・?・?

「せういえばお兄ちゃん、空の色変わつたね」

「!?.なんだと・?・?」

くそつ 逃げる暇もなかつた
結界張るのはえーぞ!淫獣め・?

「お兄ちゃん・?・?あの巨大な猫は何?・?」

「ああ、巨大だね」

「あつちにじつたほうがいいのかな?」

「・・・俺が対処しないと駄目なのか?」

と喋つてゐる

「まあ・・・そうだね お兄ちゃん」

まあ俺が行く理由はフェイト側に
転生者が居るかどうかが気になるだけだけどな

「セットアップ!」

「お兄ちゃんかっこいいね!」

と水都

「水都は俺が守るからな!」

「うん!／＼／＼

ん?顔を赤くしたか?

やつぱり氣のせいだよな

家に入ってきた空き巣を素手で倒したぐらいいじや
フラグ建たないよね!・・・建てたくないけど

『完全に妹にフラグ建ててるよな?』

神はそう思っていた

神界 side

『ふむ・・・』

『ん? ビックリしたのか?』

『いや、お前の性格が変わったと思つてな』

白い一つの光が喋っている

いや・・・

神々しい光と言つておいつか

まあ神々しいといつか神なのだが・・・

『そりゃ? 最近よくバトルロワイヤル参加者(強制)の所に行くけどな』

『あれ・・・? それルール違反じゃなかつたか・・・? まあいい』

『それでの計画はまだやつているのか?』

『もつりよつとで終わるよ あの異常者の手によつてね』

『そ・・・そつか』

ワールド イレギュラー

第97管理外世界『地球』に世界異常者が介入を始める
神の手によつて計画はただひとつの中以外には知られず
動き始める・・・・・

神界 side out

第六話 介入（後書き）

なんか不穏な空氣とシリアスな雰囲気がしてきた
気のせいだよな？

作者「ヒヤッハー！」

神治「テンション上がりすぎだぞ」

作者「やつと原作だ！」

神治「駄文だけどな」

作者「それを言わないで！」

・・・次回からは予約投稿にします
書きだめが切れた・・・
感想お待ちしております！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0037ba/>

魔法少女リリカルなのは～転生者達の戦い～

2011年12月31日19時57分発行